

第8回日本NO学会学術集会

2008年5月9日(金)・10日(土)の2日間、仙台国際センターで第8回日本NO学会学術集会が開催されました。本学術集会では200名の参加者を迎え、NO研究の最新の知見の発表や情報交換などを活発に行うことができました。

特別講演では、海外からノーベル賞受賞者の Ignarro 教授 (UCLA)、Vanhoutte 教授 (香港大学)、Michel 教授 (ハーバード大学) に、NO 発見の話から、生理学的役割、心血管病への寄与などに関し、ご講演いただきました。さらにシンポジウムの1つは、本学会に理事として多大な貢献をされ、昨年残念ながら他界されました吉村哲彦先生追悼シンポジウムとさせていただきます。この時には吉村先生のご家族にもご参加いただき、これまでの吉村先生のNO研究の足跡について、ご縁の深かった小澤俊彦先生、古武弥成先生、長野哲雄先生から吉村先生の思い出やご業績を頂戴し、吉村先生の門下生として山形からはばたかれた、藤井敏司先生、藤井浩先生から当時の研究とその継承研究についてご講演いただきました。他の3つのシンポジウムでは活性酸素種の循環器系疾患における生理的役割、NO研究におけるバイオマーカーとNOと炎症性疾患について、非常に活発な意見交換がございました。最後に行われましたNOフォーラムでは血管内皮・NO研究の最新知見として、Vanhoutte 教授、Michel 教授、Eaton 先生 (St Thomas 病院、ロンドン) にご講演を受け賜りました。

また本学術集会では3名のYIAが選出され、閉会式の前にYIA授賞式が行われました。最優秀YIAに産業医大の中田靖先生「NO合成酵素完全欠損マウスに惹起された自然発症心筋梗塞」が選出され、東北大学循環器病態学の高木文先生「内皮依存性過分極反応における一酸化窒素合成酵素系の重要な役割」、東北大学腎高血圧内分泌科の阿部倫明先生「高糖状態によるメサングウム細胞の予備暴露はアンジオテンシンII刺激による参加ストレスを増強させた」の2名が優秀YIAを受賞されました。

本学術集会はNO研究という観点から多分野にわたる研究者が集まるユニークな集会で、非常に活発で有意義な会でした。今後のNO研究の更なる飛躍が期待されます。